

## 第68回えいが部「リトルガール」(2021年)

サシヤは2歳を過ぎた頃から自身の“性別の違和感”を訴えてきたが、学校では女の子としての登録が認められず、“男子”からも“女子”からも疎外、バレエ教室では男の子の衣装を着せられてしまうなど、社会は彼女を他の子どもと同じように扱わずにいた。やがて7歳になってもありのままに生きることができない、不自由なサシヤ。家族は、そんな彼女の個性を支え、周囲に受け入れさせるため、学校や周囲へ働きかけるのだが……。

監督：セバスチャン・リフシッツ

- ・南へ行けば(2009) 監督脚本
- ・私たちの青春時代(2019) 監督
- ・リトル・ガール(2021) 監督

製作：ミューリエル・メナード

- ・リトル・ガール(2021)
- ・新章パリ・オペラ座 特別なシーズンの始まり(2022)

幼少期のトランス・アイデンティティに対する認知と受容をめぐるドキュメンタリー。男の子の身体に生まれたが、女の子になることを夢みている7歳のサシヤ。社会の壁に阻まれながらも、家族の力を借りて、サシヤが本当の幸せを手にするための戦いを描く。監督はジェンダーやセクシュアリティに目を向けた作品を撮り続け、カンヌやベルリンをはじめ世界中の映画祭で評価されているセバスチャン・リフシッツ。性と身体の不一致は肉体が成長する思春期に起こるのではなく、幼少期で自覚されることについて取材を始めていた過程で、サシヤの母親カリーヌと出会い本作が生まれた。2020年ベルリン国際映画祭で上映後、モントリオール国際ドキュメンタリー映画祭のピープルズ・チョイス賞やインサイド・アウトLGBT映画祭の観客賞（ドキュメンタリー長編）など、世界中で様々な映画賞を受賞している。